

SGH 通信

H30.6.5 No.1

高知県立高知西高等学校

〒780-8052 高知県高知市鴨部 2 丁目 5 番 70 号

TEL 088-844-1221 / FAX 088-844-4823

URL: <http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/>

グローバル探究Ⅰ（1 年）の取組

第 1 回グローバル探究Ⅰ ガイダンス「グローバル探究とは？」

4 月 17 日（火）1 年生にとって初めてのグローバル探究Ⅰの授業では、グローバル探究とは何か、1 年時の授業のねらいや3年間の授業の流れについてなど説明が行われました。

○グローバル・・・ヒト・モノ・カネ・情報が国境を越えて、地球規模で飛び交う状況のこと。

○探究活動・・・まず考えてみる（個人・集団）→ 考えたことを行動に移す。

課題設定⇒情報収集⇒整理・分析⇒発表における課題発見・課題解決の過程を重要視。

○各学年の取組・・・1・2 年はグループ、3 年は個人で探究。2・3 年はリサーチペーパー（論文）を作成する。

第 2 回グローバル探究Ⅰ ワークショップ「コンセンサス ～月～」

4 月 18 日（水）各教室にて、ワークショップ「コンセンサス～月～」が行われました。



【ワークショップのねらい】

コンセンサスゲームにより、グループ内の意見の合意形成・協力・討議の重要性を理解する。

【ワークショップの内容】

月旅行で遭難したと仮定し、機体に残った 15 品目の中で必要度の高いと思われる物に順位をつけます。まず、各人で順位付けをした後、グループ内で意見を交換し合い、多数決に頼ることなく、グループ内の順位付けを確定し、発表します。個人の順位づけよりもグループで話し合いをしたほうがより良い結果が得られれば成功です。

【生徒の感想から】

自分で考えて選んだ時は、だいたい選んでいたが、グループで話し合った時は、なぜ必要とするのか考え、皆の意見が合意した時に選択できた。納得ができる意見だった。結果も誤差が縮まったので話し合うことは大切だと思った。

第 3 回 グローバル探究Ⅰ「サブテーマ生産流通について」講話とワーク



4 月 25 日（水）はマルトモ株式会社営業本部長 土居 幹治氏をお迎えして、サブテーマ「生産流通」についての講話が行われました。

【講話のポイント】

- ・企業の価値は「ブランド＋レシピ」
- ・食品の価値を考える（カツオ、かつお節、かつお節商品の価格から）
- ・かつお節は発酵食品＆高たんぱく質（健康栄養の観点から）
- ・STP マーケティングについて

【生徒の感想から】

商品売る際には、買い手の立場に立って商品開発をすること、ターゲットを絞って商品開発を行うことの重要性を理解できました。普段何気なく売られている商品にこれだけの努力と工夫があることに驚きました。

第4回グローバル探究Ⅰ「高知県の現状と課題」講話とワークショップ

5月9日（水）は大阪大学大学院法学研究科 教授 北村 亘氏をお迎えして、「高知県の現状と課題」についての講話が行われました。



パワーポイントによる他県との比較や、高知県の現状、今後についてのお話を聞きました。生徒は個々でメモを取るなど真剣に聴いていました。

- ・ 47 都道府県の中の高知県
- ・ 高知県の社会経済状況
- ・ 少子高齢化・人口減少と「地方消滅」
- ・ 高知県下34市町村の類型化



講話の後、春休みの課題である「里山産業論」についてのワークショップを実施しました。

【生徒の感想から】

今回の講話では、高知県の現状が思ったより深刻だということがわかりました。全国には300以上の消滅の危機にある自治体があることにびっくりしました。

第5回グローバル探究Ⅰ「サブテーマ六次産業・食と健康について」講話

5月16日（水）は高知大学副学長 受田 浩之氏をお迎えして、「サブテーマ六次産業・食と健康について」についての講話が行われました。



【講話のポイント】

「二段階発酵・碁石茶の歴史と未来」と題して、碁石茶をめぐる産官学連携とブランド化についての講話をしていただきました。碁石茶には、抗酸化力、インフルエンザ感染予防効果、高脂血症や動脈硬化抑制効果があり、また、赤ワインとほぼ同じような味のバランスをもつことが分かっています。市場では1g＝1円が基準であり、それ以下の物は価格が安く、それ以上は高いと考えられます。碁石茶は1g＝60円と、その価値を最大化することに成功している商品といえます。

【生徒の感想から】

今回の講話を通じて、地域の産物について探究し、科学的根拠を証明することで、価値を最大化することができるということが分かりました。

第6回グローバル探究Ⅰ「サブテーマ食と観光について」講話

5月23日（水）は株式会社わらびの代表取締役 畠中 智子氏をお迎えして、「サブテーマ食と観光について」についての講話が行われました。



【講話のポイント】

- ・ ふるさとの台所を復刻させた理由は「ふるさとの味」を後世に伝える必要性を強く感じたから。
- ・ 観光とは、その地域の光を観ること。高知県は「地元ならではのおいしい食べ物が多かった県」として何度も全国一位を取っている。
- ・ 高知の素晴らしい食文化をまるごと体験できる観光ツアーを企画している。

【生徒の感想から】

今ではどこの地域でも似たようなものが売られるような流れになっていますが、それぞれの地域が同じようなものを真似しても面白くないし、すぐ飽きられてしまうと思います。なので、その地域の特産物や地形を生かした「リピーターづくり」が大切だと感じました。